

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail:nakagawa@cronos.ocn.ne.jp

三重／〒513-0801 三重県鈴鹿市神戸 7-1-5 TEL:059-381-3513/FAX:059-381-3514

東京／〒100-8981 千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 519 号室 TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○「文部科学大臣就任」感謝

野田内閣が落ち着いて、地味に出発しました。私は、文部科学大臣を拝命しました。副大臣が奥村展三衆議院議員と森ゆうこ参議院議員、政務官は城井崇衆議院議員と神本美恵子参議院議員が任命されました。

皆様のご支援に育てられて16年、初めての大臣就任となりました。沢山の応援、本当にありがとうございました。期待をしっかり受け止め頑張ります。

原子力被害に対して十分な対応をすること、被災地の力強い復興へと第3次補正予算の道筋を立てるなどの課題はもちろん、それに加えて、人材育成はこの国の基幹政策だということを基本に、教育の質を上げること、世界でどの分野に関わらずトップグループが維持できる科学技術研究の人材を作ること、文化やスポーツが内向きで縮みつつあるといわれる今の日本人の心を反転攻勢、元気で存在感のある日本の牽引役にしていきたいと思えます。さらに加えて、全ての分野の国際化を進め、海外に開いていく日本の先導的な事業を進めます。前向きな議論が出来るように、野党の皆さんにも丁寧に相談をかけていくことが大切だと思っています。

目の前の具体的な課題としては、学校や子どもの生活領域周辺の放射能除染に精一杯の取り組みをすること、心のケアなど被災地の教育環境をきめ細かく整えること、原子力安全庁を創設するための条件を文部科学省で整えること、高速増殖炉「もんじゅ」の再開をどうするか結論を出していくこと、教職員の免許更新制をどのように改正するか制度設計を具体化することなどなど、待ったなしで決断することになります。

教育や科学技術は、日本の国力の要です。やりがいをもって、元気に働いていきます。

○日本語を世界に広める

中国の天津外国語大学で開かれた、「日本語教育学会年次総会」の世界大会に招待されて基調講演をしました。世界各国で日本語を教えたり、日本研究に携わる先生方が2千人を超える規模で天津に結集して、活気に溢れていました。中国は孔子学院を展開して、中国語教育に国家が積極的に取り組んでいます。これまで、日本は国家の戦略的な

取り組みには欠けていました。しかし、天津に行ってみて、司会をした学生たちがNHKのアナウンサー顔負けの高度できれいな日本語を駆使できる、そのレベルの高さに感動し、世界で日本語を勉強したいと思う人々がここ数年来越え続けて、350万人を越えるところまで来ていることを聞いて、本当に元気が出ました。国の戦略の欠如に関わらず、日本語を学びたいという人々のニーズは、世界で着実に広がっています。

経済大国、技術立国一辺倒の以前の日本のイメージと日本への興味分野が、今は、確実に変わってきていると彼らは言います。特に文化面では伝統的なお茶、お花、歌舞伎、能などから現代日本の「カッコいい生活」への憧れのような気持ちへ、その対象が広がっています。日本人の日常の生活文化、アニメ、メディア芸術、ファッション、食文化や、特に豊かで美しい田舎を支える地域社会の仕組み、大災害で見た日本人の落ち着いた気品のある特質などが新しい日本のイメージを作りつつあると言います。経済一辺倒から脱皮して、成熟社会の文化と生活が日本の新しい存在感を作りそれが海外で広がりつつあるという話です。

とても元気の出る話です。日本は成熟社会に入って「本当の豊かさとは何か」と問えるところまで来たにもかかわらず、日本で生活している私たちがそのことに気がつかず、相変わらずの発展途上国の経済一辺倒型にこだわり続けているのかもしれない。

○懐かしの「日本新党」が出発点

代表選では、「中川さんは誰を推したのか？」と、聞かれます。野田さんを推しました。今から18年ほど前になります。当時自民党の県会議員であった私が、政権交代が必要だからと、自民党を離れて日本新党に入り、三重県の代表を務めました。野田さんは、当時すでに日本新党の代議士であり私の日本新党入党の審査委員という役回りでも面接してくれたのが初めての出会いになります。官房長官で野田総理の懐刀の藤村さんも、またそのサポート役の官房副長官の長浜参議院議員も当時の日本新党でイキイキと活動していました。あれから、新進党、そして分裂、その後の変遷の中でやっと民主党政権が出来ました。今回の代表選では、細川元総理も心配をして、方々に働きかけをしていただいたようです。感慨無量です。